**病棟一部を学生寮に使用　県が是正申し入れ一浜松の常葉リハビリ病院**

静岡新聞2002.07.13タ刊3頁　（全726字）

常葉学園(本部・静岡市）が運営する浜松市根洗町の「常葉リハビリテーション病院」が、診療目的とは別に、病棟の一部を系列の浜松大(浜松市都田町)に通う中国人留学生の寮として利用していることが分かった。病院の土地と建物は県が所有し、売却を前提に同学園に貸し付けている。県は目的外使用について六月下旬、学園側に是正を申し入れた。しかし、学園側は「使兩していない病室の有効活用で、実質的な問題はない」と説明している。

常葉リハビリテーション病院は、今年三月に閉鎖された「浜松リハビリテーションセンター」を引き継ぎ、同学園の系列の医療専門学校（同市都田町）の付属病院として四月に開院した。ところが先月、県瞎害者プラン推進室に「学生が病院に住んでいる」との情報が入り、同学園本部に確認したところ事実を認めたため、是正を申し入れた。担当者は「地域の障害者医療という公的目的があっての売却。現状は適正な利用とはいえない」と困惑し、県医療室は「事実であれば、病院施設の目的外使用にあたり、好ましくない」としている。

これに対し、浜松大の木宮一邦学長は「建築基準法上の用途変更の問題はあるかもしれないが、あくまで形式的な問題Jと話し、問題視する県とは異なる立場をとる。同学長の説明によると、学生が蜜として使用している病室は、同センタ一から継承せずに余った病寐分の施設で、病院機能には全く支障はないとしている。

同学長は「あくまで留学生のためにやったこと。重度障害を受け入れる地域医療の存続と売却したい県の意向を踏まえれば現実的な選択」としている。

【写説】施設の一部を学生の量として使用していることが分かった「常葉リハビリテ一シヨン病院」=浜松市根洗町

静岡新聞社